

中学校教科等研修講座(数学科)

教科等指導員 伊丹市立天王寺川中学校 教諭 長谷 慎一

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：小中連携 ICT活用 出前授業 わかる授業

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題(またはテーマ)
2月18日(火)	伊丹市立天王寺川中学校 長谷 慎一 教諭	伊丹市立瑞穂小学校 授業研究・事後研究	「正負の数」

2 主な内容

(1) 「正負の数」

① ねらい

小学校6年生にとって、「算数」から「数学」へスムーズに移行していくきっかけとする。

② はじめに

自己紹介を含め、天王寺川中学校数学科の取組(天中数学オリンピック)を紹介し、市内の中学生がチャレンジしている問題の難しさとおもしろさを伝える。

③ 導入

正の数・負の数を提示することをさけ、「黒の数」と「赤の数」を用い、クイズ形式で計算のルールを探らせた。

① $1(\text{黒}) + 2(\text{黒}) = 3(\text{黒})$ ② $8(\text{赤}) + 6(\text{赤}) = 14(\text{赤})$ ③ $8(\text{黒}) + 4(\text{赤}) = \square$

③の答え(数と色)を個人で考えさせ、メガホンを使い、分かった児童の答え個別に聞いた。

④ 展開

・自分の考えた計算のルールをワークシートに記入させ、その後グループでお互いの意見を出し合わせた。自分の考えを言えることができているか、相手の話を受け入れ考えを練り直しているかを中心に確認しながら机間指導をおこなった。

・グループで出した意見を順に発表させ、それぞれが考えた計算のルールを聞きあった。

⑤ まとめ

優れた考えをまとめたグループの言葉を用いて、板書した。また、資料(自作の解説スライド)を電子黒板で提示し、色の違いと計算のルールについてわかりやすく説明した。



3 成果と課題

(1) 成果

① 小中の教科等指導員が連携することにより、小中連携を意識した時期や授業内容を実施することができた。また、「算数」と「数学」の関連性を認識させる切実感のある授業構成にできた。

② 日頃の中学生を対象にした授業と比べ、小学校の児童を相手に授業をおこなう良い機会となり、実際に自分自身が小学校の現状を把握することができた。

(2) 課題

① 児童の興味・関心を引くための導入の時間確保を意識しすぎたことで、考えさせる場面で十分な時間がとれなかった。

② 日頃の授業同様に、この1時間での学びはどのようなところなのかをより明確にする必要があった。